

令和6年度 特色ある道徳教育推進校 鎌ヶ谷市立第三中学校

研究主題

『生徒一人ひとりが「いのち」のつながりと輝きについて深く考え、議論する道徳の授業を目指して』

～教えて考えさせる授業（OKJ）の実践を通して～

取組1 授業形式の統一

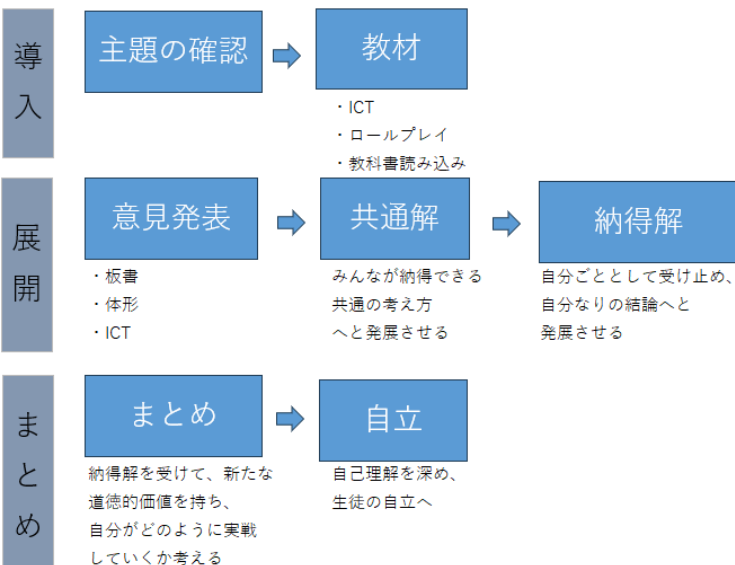
工夫1 学校共通の授業スタイルを確立

従来は、職員が独自の工夫で授業実践を行っていたが、本校の授業スタイルである「OKJ」をベースにした「三中スタイル」について研修を推進した。

具体的には学習指導要領を踏まえ「読み取り道徳」から、「考え議論する道徳」へ転換するために図のような授業のフローチャートを作成し、教職員に展開した。



【図】三中スタイル フローチャート



工夫2 学校共通のワークシートを作成

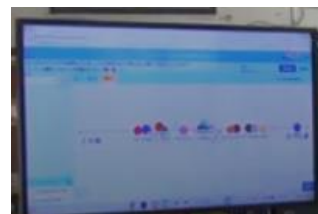
「三中スタイル」に沿った授業を展開するために、フローチャートの様式のワークシートフォーマットを作成し、全職員で活用した。「三中スタイル」に則って授業を行う軸として活用していくことで、「共通解」や「納得解」の観点を明確にした授業を全校で実施することができた。

道徳ワークシート(サンプル)		授業実施日 月 日	
年 組 番 氏名()			
公開授業に向けて、全ての道徳授業で使用していただく様式になります。 授業で使用したあとは、道徳ポートフォリオに貼らせてください。 教材名・教科書掲載ページ 印刷はB4をお願いします。 「スイッチ」 8ページ 登場人物整理 ・陸奥…卓球への思いが強く、卓球強豪校の城南高校に入学した。 ・坂先生…城南高校の卓球部顧問。 ・田原先生…ライバル校の卓球部顧問。 全てを書かせる時間はないので、あらかじめ教員が入力したものをプリントアウトしましょう。穴埋めもOK。		教材、掲載ページ、指導内容などは教員が最初から記載していません。 指導内容 自主、自律、自由と責任 今日の目標 「自律」とは何か考えよう。 あらすじ整理 ・陸奥は坂先生の指導力にあこがれて城南高校卓球部に入学した ・坂先生が大会前日に入院し、試合に負けた ・部員を引き継いだ陸奥は部をまとめることに苦悩する ・入院中の坂先生にアドバイスを求める ・坂先生に言い出せず、「君たちは試されているんだよ」と言われる ・スイッチが入った 全てを書かせる時間はないので、あらかじめ教員が入力したものをプリントアウトしましょう。穴埋めもOK。	
問1 (導入発展) 自分の学校や部活における役割は何か、これからその仕事を、どんな気持ちでこなしていきますか。 自分の考え (考えた理由) 先問スペースに、導入・共通解・納得解の発問を入力してください。 先問数に応じて適宜セル等を追加・削除していただく場合があります。 メモ(友達や先生の考えなど) (考えた理由) 生徒の考えはできるだけ黒板に記し、友達の考えも書き写すよう	問2 (本文理解発展) どんなことに気づいたのでしょうか。 自分の考え (考えた理由) ただ考えたことを書くのではなく、その発問に至った経緯も考えさせましょう。 メモ(友達や先生の考えなど) (考えた理由)		
問3 (共通解発展) スイッチを切り替えた後の陸奥たちはどう変わったと思いますか。 自分の考え (考えた理由) 共通解と納得解に関する質問は必ず入れるようにしてください。	問4 (納得解発展) 今日の授業を受けて、あなたは自分の役割とどのように向き合おうと思いますか。 自分の考え (考えた理由) 共通解と納得解に関する質問は必ず入れるようにしてください。		

工夫3 ICT ツールの積極的活用

数年前に鎌ヶ谷市ICT推進校として指定されていた実績を生かし、各教員が専門教科の授業を行う際にICTツールを活用している。その強みを生かし、道徳の授業においてもICTツールを用いて視覚的・直感的に生徒に伝わりやすい授業を行った。

道徳授業において用いられる頻度が高いツールは、skymenu、Google forms、Google spreadsheet、テキストマイニングである。



取組2 「考え議論する道徳」の実現

工夫1 生徒が議論に慣れる

道徳だけでなく、全ての教科で「議論する場」を設定し、議論に慣れさせる授業について研究推進を行った。

一例として、三学年の国語の授業においては学期に一度程度の頻度でディベートを実施し、思考力や表現力を磨いている。



工夫2 生徒がリーダーシップを備える

議論に対する「やる気」や「必然性」を維持していくためには、話し合いを上手に進行するリーダーが不可欠である。全教科の授業で計画的にリーダー育成を図るように研究推進を行った。

三学年国語のディベートを実施する際には必ずリーダーを決めており、立論・質疑・反駁・最終弁論の各行程でどのように議論するかをリーダーにまとめさせている。

工夫3 教師が発問力を身に付ける

校内研究会において講師の先生より、多くの助言を得ることができた。例えば、議論を深めるためには、生徒の発言に対して教師が「本当に？」などの切り返しの発問を行うことも大切ということが挙げられる。それらを生かし、生徒が自分事として考えられるような発問を授業の中で生み出していくための研究を推進してきた。

また、ペップトークなどの研修を行い、生徒とのコミュニケーションを深める授業に活用してきた。

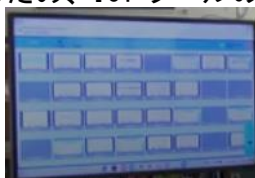
工夫4 教師が題材や学級を見極める

道徳の授業においては、議論に適している題材とそうではないものがあるため、取り扱う題材に応じた授業展開を行う必要がある。また、展開学級の実態に合わせた授業展開、議論の方法を見極めることが必要である。

その点を意識した授業を展開すべく、授業実施者は教材の吟味や各学級の観察を念入りに行った。

主な成果と課題

- 授業スタイルワークシートを共通化したことで、授業展開に統一感が出た。
- 考え議論する授業を意識したことで、生徒の思考力や表現力が高まった。
- 教科横断的な意識が高まったことで、全教科における対話的な授業が深まった。
- ICTスキルは教員によって習熟度が異なるため、ICTツールの活用には授業者によって差が生じている。
- 議論やリーダーシップの育成については教科によって向き不向きがある。



授業実践事例

1 学習指導案

鎌ヶ谷市立第三中学校 3年 5組 道徳学習指導案

令和 6年 11月 26日（火）

（１）主題名

真の友情

（関連：学習指導要領：Ｂ－（８）友情・信頼）

（２）ねらいと教材

ねらい：真の友情とはどのようなものか、事例をふまえて考えさせる。

教材名：「いつのまに・・・」（千葉県制作映像授業）

2 主題設定の理由

（１）ねらいや指導内容についての教師の捉え方（指導観）

内容項目Ｂ－（８）は「友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち、互いに励まし合い、高め合う。」ことをねらいとしている。「心から信頼できる友達」をもつことは人生における財産ともいうべきことであるが、価値観が全く同じ友達にめぐりあえる機会は限られている。しかし多様な考え方に対峙したときにこそ人間的な成長の機会が潜んでいる。相手を認め、励まし合い高め合うことで真の友人関係構築を果たすことにつながる。

多くの場合において、中学生の時期は人生において最も多感な時期となる。そのため、小さなことが発端となり、次第に衝突等に発展してしまうことも少なくない。また、周囲の雰囲気によって同調してしまうことで、気持ちのすれ違いや対立の構図が生じてしまうこともある。

そこで本時では、変化していく友人関係が描かれている題材を通して、信頼できる友達をもつことの重要性理解及び真の友情について考えさせたいと考え、本主題を設定した。

（２）生徒のこれまでの学習状況や実態と教師の願い（生徒観・生徒の実態）

3年5組は、学級内における衝突や意見の食い違いなどは一切なく、互いを思いやれる優しさに満ちた学級である。これまでも授業や学校行事において、級友を尊重しながら生活することができている。

他者に合わせられる一方で、自分の意見を持つことを不得手とする生徒が多い。授業中の問いかけに反応しない、挨拶の声が小さいなど、自信が感じられない場面が見受けられる。他者に流されることに慣れてしまっている雰囲気が感じられる。

無批判に周囲に同調するのではなく、常に状況を観察し、今どうあるべきかを思考して、勇気を持って発言及び行動できる能力を養いたいと考えている。

（３）使用する教材の特質やそれを生かす具体的な活用方法（教材）

- ・ 板書 … 生徒の意見をまとめる
- ・ ワークシート … 生徒に書いて考えさせる
- ・ chromebook (Google forms、Google spread sheet、skymenu、テキストマイニング)
… 生徒の意見を電子的に集約し、可視化する

3 展開

過程	学習活動と主な発問	予想される反応	指導上の留意点
導入 (15分)	・ 主題に関する発問 (10分) 「本当の友情」とはどんなものだと思うか。 ・ 登場人物・概要整理 (5分)	・ 「やさしくできる関係」 ・ 「遠慮なく言える間柄」	・ 板書
展開 (25分)	・ 発問① (共通解) (7分) みんながネットでミキを批判したときに、ユリの気持ちはミキ側とみんな側のどちらにいたのだろうか。 ・ 発問② (共通解) (10分) ミキが退部を申し出てきたことを顧問から聞いたときのユリはどんな気持ちだったのだろうか。 ・ 発問③ (納得解) (8分) 保健室でミキと対面したユリが伝えたかったことはなんだろう。あなたなら何を伝えるか。	・ みんな側 (合わせないと自分も悪く言われる) ・ ミキ側 (ミキに謝りたい) ・ 自分ひとりでもミキに寄り添えばよかった。 ・ また一緒にバスケやろうよ。 ・ みんなといっしょに悪口言ってごめんね。	・ 板書 ・ skymenu_ポジショニング ・ 板書 ・ skymenu_発表ノート ・ 板書 ・ ワークシート ・ 板書
終末 (10分)	・ 振り返り	・ これからは周りに流されないようにしたいと思った。	・ Google forms、spread sheet、テキストマイニング

他の教育活動との関連

(1) 国語科ディベート 英語科討論 など

4 授業の様子

(1) 板書 (画像でも、データで残されている板書計画等でも可)

【目標】
「本当の友情」について考えよう。

いつのまに・・・

◆ 振り返り

・

◆ 保健室で伝えたかったこと

・

◆ ミキの退部を聞いて

・

・ みんな側

・

◆ ポジショニング

・

・ ミキ側

・

◆ 概要

ユリ

ミキ

マリコ

◆ 登場人物

・

◆ 本当の友情とは

・







(2) 生徒の様子

- ・ 友達の発言を聞き、様々な価値観を学ぶことができていた。
- ・ 教材の内容を自分事としてとらえることができていた。